

第26回景観ルックイン 大牟田市政100周年

「大牟田市の世界遺産（産業遺産）を活かしたまちづくり」

2017年に市政100周年を迎える大牟田市は、かつては三池炭鉱の街として栄え、それに関連する産業遺産が残る。それらの内、三池炭鉱宮原坑・三池炭鉱専用鉄道敷跡・三池港は2015年7月に世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」の構成資産となっている。三池港は現在も稼働している資産である。この他にも旧三井港倶楽部、サンデン本社（旧三池炭鉱三川電鉄変電所）、長崎税関三池税関支所などの関連資産も残り、別の用途で使い続けられている。

これらの資産は大牟田市の歴史や文化を語る重要な資源であるが、これまでは積極的な活用はなされず、世界遺産登録への盛り上がりで徐々に認識が高まってきた状況であり、少しずつ整備が進んでいる。大牟田市でも景観計画と活用計画を策定し、これから町興しの重要な資源として活用していく予定である。

景観ルックインではこれらの資産の見学を行い、ミニシンポジウムで地域住民の皆さんにも参加してもらい、産業遺産を活かした今後のまちづくりのあり方や課題について議論を深めていきたい。



2016年8月23日（火）13:00～17:30 会場 大牟田商工会議所会議室

■スケジュール：

13:05 大牟田駅西口集合・バス出発

バスの中で見学行程と資産の概要を説明

（行程：宮原坑→サンデン本社→長崎税関三池税関支所→三池港→旧三井港倶楽部）

15:15 大牟田商工会議所到着・休憩

15:30～17:20 ミニシンポジウム

開会挨拶：浅野聡（持続再生景観小委員会主査：三重大学）

大牟田市副市長（予定）

話題提供：

大牟田の景観について 大森洋子（久留米工業大学）

産業遺産とまちづくりについて 大牟田市文化財担当者

大牟田市まちづくり担当者

（18:00～20:00 懇親会予定）

■パネリスト：大牟田市担当者、市民まちづくり団体関係者、

三宅 諭（岩手大学）、阿部大輔（龍谷大学）

■コーディネーター：大森洋子（久留米工業大学）

■参加費（資料代含む）

・会員 1,000円 ・会員外 2,000円
・学生 500円

■定員：40名（先着順）

■申込み・お問い合わせ：

氏名、所属、連絡先（メールアドレス）、会員の有無、懇親会の参加有無を記入の上、8/8（月）までに下記担当までお申込みください。

担当：日本大学 宇於崎勝也 宛

（E-mail：uozaki@arch.cst.nihon-u.ac.jp）

■主催：

日本建築学会都市計画委員会
持続再生景観小委員会

■共催：大牟田市